

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター研究部門「トランスナショナル社会と日本文化」

第3回「科研：既存荘園村落情報」シンポジウムの開催

【開催要領】

日時：2017年9月6日(水)13時00分～17時30分

会場：早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室

テーマ：カレントモデルとしての美濃国大井荘研究

趣旨説明：海老澤衷〈早稲田大学文学学術院教授〉（13時00分～13時10分）

報告

- ① 赤松秀亮（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程、DC）

：東大寺領美濃国大井荘の「勅施入」と「開発領主」

（13時10分～13時50分）

- ② 遠藤基郎〈東京大学史料編纂所教授〉

：「古代美濃国荘園公領関係史料の再検討と条里・荘域復原研究の現状

－安八郡東大寺領大井荘成立の歴史的背景を中心に－」

（13時50分～14時30分）

〈コーヒーブレイク 14時30分～15時00分〉

- ③ 稲葉伸道〈名古屋大学名誉教授〉

：「大井荘研究の二三の問題について」

（15時00分～15時40分）

- ④ 海老澤衷：荘園から城下町へー変貌し、継承される防災・流通・文化ー

（15時40分～16時20分）

討論（16時30分～17時30分）